初代理事長 倉橋氏

建設業のIT化支援

CALS支援事業協同組合が設立

倉橋 利一理事長

国のe－japan構想のもと、県内建設業におけるCALS／ECの強化・支援を目的に設立されたCALS支援事業協同組合（倉橋利一理事長）の設立記念式典が26日、鹿児島市のベイサイド錦江で開かれた。

当組合は、県内の関連業者5社で構成。情報の電子化と通信ネットワークを利用した効率的な情報交換・共有・連携の実現が求められる今日、建設関連に特化したコンサルタント型ビジネスとして「公共工事の発注者及び受注者向けのCALS／EC支援事業」を行うことを最大の目的としている。

冒頭、倉橋理事長は、「建設業に携わる皆様にとって、今後CALS／ECへの対応は避けて通れないものである。業務の効率化・コスト低減になれますように、また本県が建設業IT化の先進県となることを目指して、精一杯業界の発展に寄与していきたい」と挨拶。

業務の効率化に寄与することを表明した式典
＝鹿児島市のベイサイド錦江で

また、来賓の柴立鉄彦県議や原田耕藏県土木部次長らが「県においては19年度までに電子入札・納品の完全導入を目指しており、貴組合の設立は大変時機を得たものであると考える。激しい技術革新が行われる中であるが、ぜひ業界の発展にご尽力いただきたい」などと祝辞を寄せた。

新役員は次の通り。

理事長＝倉橋利一（㈱インターウェーブ）▽専務理事＝久永修平（鹿児島リコー㈱、㈱久永）▽理事＝石室屋光昭（有美光社）井上浩（有カラーショップ・ワールド）▽監事＝石場田高（㈱久永）土岐秀治（㈱インターウェーブ）▽事務局長＝岩下格（鹿児島リコー㈱）

生勝1号トンネル安全祈願祭

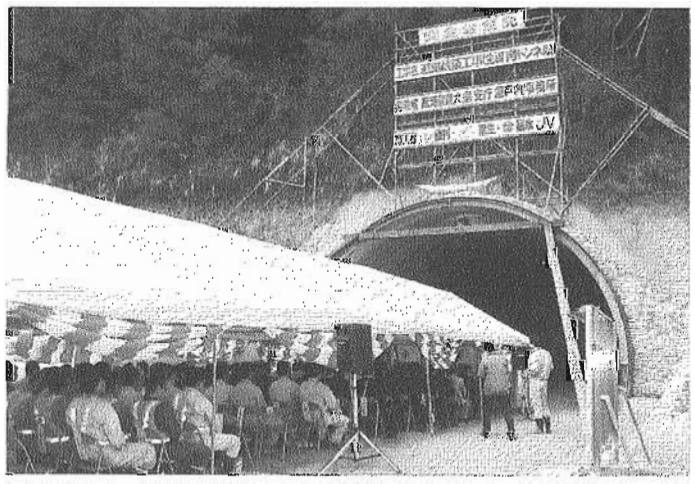
工事の無事完成を祈る

県が整備を進める大島郡宇検村生勝バイパスの生勝1号トンネルが本格着工の運びとなり、26日に現地で安全祈願祭が行われた。

安全祈願祭には、発注者の県大島支庁瀬戸内事務所、宇検村など行政、工事関係者らが出席。神事では、㈱植村組の植村久代表取締役、南生建設㈱の上田謙一副社長、㈱福永建設の福永秀文代表取締役らが地鎮の儀を執り行った後、県建設業協会奄美支部の村上慎一郎副支部長ら各関係者代表が工事の無事を祈り、次々と玉串を捧げた。

生勝1号トンネルは、延長687㍍、トンネル車道幅は6㍍（全体幅8・5m）で事業費は約20億円。18年度末の供用開始を目指す。施工は㈱植村組・南生建設㈱・㈱福永建設特定建設工事共同企業体が請け負う。工法はNATM。

同村では芦検トンネルと伊仁トンネル（生勝トンネル3号トンネル）が既に供用されており、今後着工予定の生勝2号トンネル（仮称・桁橋トンネル）とともに整備を進め、バイパス全体の完成を目指す。



多くの関係者が出席した安全祈願祭
＝宇検村生勝の坑口前で

テーマゾーンなど再構築へ

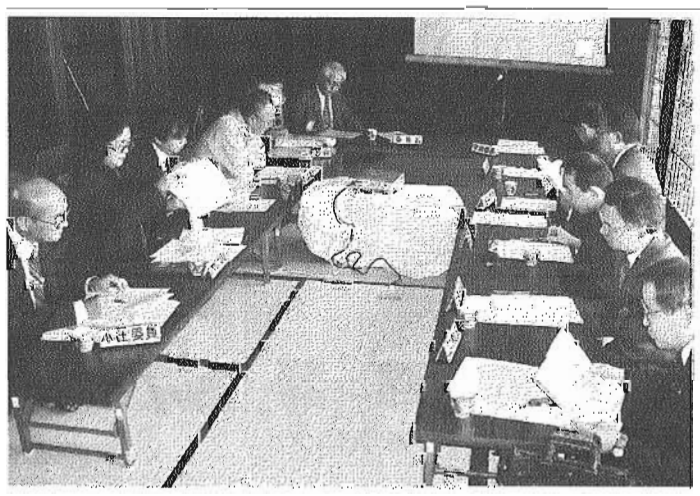
北薩広域公園整備計画委

県土木部都市計画課は26日、薩摩郡宮之城町の北薩広域公園里の家で国土交通省川内川河川事務所及び近隣市町村らで構成する「北薩広域公園整備計画委員会」の第1回会議を開き、検討委員会設置要綱や委員長などを決定した。

委員会の冒頭、中村孝都市計画課長が「ふるさとゾーンについては整備が順次進んでいるが、テーマゾーン、歴史ゾーンについては未定の状態である。同委員会ではテーマゾーンについて、今後どのように整備を進めていけばよいのか検討していただきたい」と挨拶。

引き続き、委員推薦で平田登基男鹿児島工業高等専門学校教授を委員長に選出し議題に移り、事務局である県土木部都市計画課から「基本構想策定時と現在の公園を取り巻く経済、社会情勢が変化してきていることや類似施設が県内に整備されていることなどから委員会を設置、今後のテーマゾーン整備についての検討を行う」などの設置要綱や現在の整備状況及び同公園の基本コンセプト、現在の利用状況等の説明が行われた。委員からは「テーマゾーンの位置づけ」「コンセプト等の全面変更は了承できるのか」などの意見が出され、次回委員会で詳細について会議を行うことなどが確認された。

委員会では、今後、2年間で約4回の会議を開催する予定。



現在の整備状況などについて説明された委員会
＝宮之城町の北薩広域公園で

話題の商品・工法

高品質な低層建築実現

NEOカラム構法を開発

鹿島（梅田貞夫社長）は、店舗、工場などの低層建築物用「NEOカラム構法」＝写真＝を開発した。既製杭（遠心成形PHC杭）の製造ラインを利用して中空薄肉プレストレストプレキャスト柱を製作し、現場で鉄骨梁と接合することで、鉄骨造よりも安く、鉄筋コンクリートよりも工期を短縮。柱継手もない、高品質低層建築物を実現した。

従来、低層の生産施設や商業施設は、鉄骨造がほとんど。短工期でもコストが高いという難点があった。一方、鉄筋コンクリート造には、コストは安いものの、工期がかかるといった課題があり、これまでも柱をプレキャストRC柱に、梁に鉄骨を用いる複合構法はあったが、プレキャスト柱の製作にコストが掛かるなどの欠点が指摘されていた。

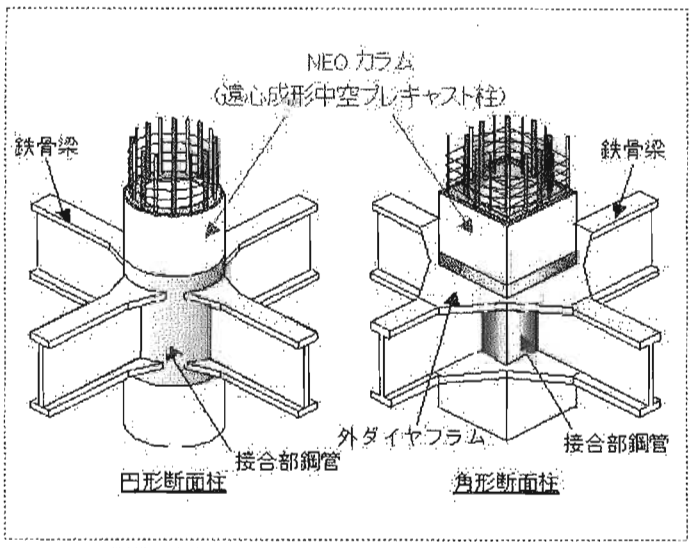
「NEOカラム構法」は、柱の重量を通常のプレキャスト柱の約60％にまで低減。部材は、工場生産によって標準化されているため、設計仕様の決定と同時に製造でき、蒸気養生から2～3日で出荷できる。耐火被覆も不要とし、コストダウンと工期短縮を図った。

また、高強度コンクリートを用い、かつPC鋼棒と異形鉄筋を用いたプレストレスト構造にしているため、クラックが発生しにくく、高耐久・高強度である点も大きな特徴の一つ。

柱は、継手なしの一本もので、運搬可能な15㍍以下としており、広大な平面の建物に採用できるという。鋼製型枠を用いた遠心成形で製造するため、部材の表面も滑らかで、補修や下地処理工程なしに直接素地の塗装仕上げができる。

同社は、15年9月に「NEOカラム構法」の建築技術性能証明書を日本建築総合試験所から取得済み。今後は、低コストと短工期を同時に求められる店舗や工場、駐車場、倉庫など、低層建物用の有力な架構技術として同構法を提案する一方、受注案件でも積極的に採用していく方針だ。

問い合わせ先は、同社建築設計エンジニアリング本部構造設計グループ（☎03・6229・7398）。

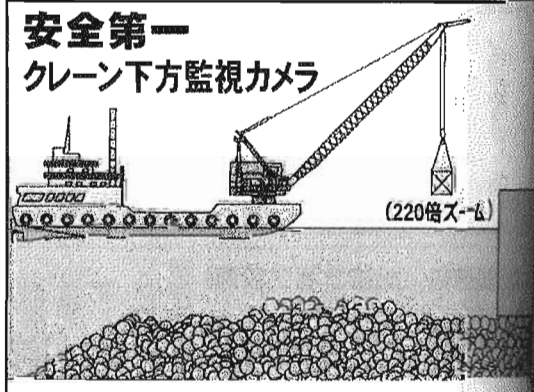


真の日本のすまい表彰式

来月8日に東京都で

（財）住宅産業研修財団（松田妙子理事長）は3月8日午後3時30分から、東京都文京区の住宅金融公庫すまい・るホールで「第1回真の日本のすまい」提案競技受賞表彰式を開く。

安全第一
クレーン下方監視カメラ



㈱ゼネラルエンジニヤリング
鹿児島市錦江町8－6
☎099-223-6386